

天正十一年正月朔日、參河、遠江、駿河、甲斐、信濃、五州ノ諸士、濱松ノ城ニ入テ、神君及ビ秀忠公ニ拜謁シ奉リ、新正ヲ賀ス、

〔武江年表一〕天正十九年正月、關八州の諸家、歳首の御賀として、始て登城ありしと云、

〔家忠日記追加〕文祿元年正月一日、群臣江戸の城に登り、大神君に謁し、新正を祝す、

〔家忠日記追加〕慶長五年正月一日、列候以下大坂の城西の丸に登り、大神君に謁し、新正の賀儀を獻す、秀頼大坂の城本丸に在り、例の如く朔旦より五日に至り、諸大名及び近習外様の面々城に登り、秀頼に謁して、各歳首を祝す、

〔慶長日記〕慶長十四年二月四日丙辰、略○中 此頃關東衆駿府へ祇候、被遂年頭禮、又九州衆も去年不

參間駿府へ下、有移徙禮、并年頭禮、於駿府伊達政宗進物事、金子百枚、馬貳疋、脇指二腰、小夜物唐織綴子

也、拾、其外女房衆五人ニ金五枚宛、被出年頭、自女房衆萬事言上、男方ヨリ言上之事、大小共不成間、

女房衆賄賂不可勝計、又男人三四人へ銀五拾枚宛、

〔駿府政事錄二〕慶長十七年正月朔日丙申、已刻出御前殿、御裝束白水干御劔高力河内守持之、越前少將忠

直名代、御孫子、越後少將忠輝名代、幕下御舍弟本多上野介披露之、今日出仕輩大澤少將、松平河内

守、松平和泉守、松平主殿頭、松平玄蕃頭、本多縫殿助、康俊、水野日向守、戸田土佐守、略○中 各獻御太刀

御馬、本多上野介、永井右近、西尾豊後守、披露之、其外無官侍出仕之輩、不可勝計、二日、已刻出御、略○中

略 今日出仕輩、西尾豊後守、遠藤但馬守、竹中丹後守、重門、一柳監物、九鬼長門守、古田大膳大夫、稻葉

右近大夫、谷出羽守、平野遠江守、長谷川縫殿助、日野入道、唯心、水無瀬入道、一齋、山名禪高、上杉黨、土

岐黨、大島黨、高木黨、木曾黨、各御太刀御馬獻之、三日、國々諸大名爲年頭之賀儀、金銀御服獻之云

云、

〔元寬日記〕元和二年正月朔日、有年始之御禮、卯刻將軍家秀忠公、江城黑書院有出御、御太刀御刀近